

成績評価における客観的な指標の算出方法

本校の学則細則より（抜粋）

3. 試験及び、課題製作物に関する事項

（1）試験は前期と後期の各学期末に行う。

（2）課題製作物は提出日を厳守する。

提出日に提出しない場合、遅れる毎に基準点から各5点減点する。

（3）試験、課題製作物とも優（90点以上）（GP 4点）、良（89～80）（GP 3点）、良（79～70）、（GP 2点）可（69～60）（GP 1点）、不可（59点以下）の判定とする。

4. 修了及び卒業判定

修了及び卒業の判定は、前後期の各試験の成績、出席、課題製作物の各評価を基に、教員会議で総合的に判断し、学校長がこれを認定する。

評価の基本的考え方

成績評価は、学生の学習の到達度を計るものである。

また、成績評価は、自らの授業で、学生にどれだけ理解させたか、または技術を習得させたかということでもあり、教師自らの指導力を問うものである。

成績の平均は、可と良の中間（65～75）程度になることが望ましい。

評価の対象となるものと比率の考え方

授業形式	学科試験	レポートや作品（提出物） 等	学習態度、研修委託先レポート
講座中心	◎	○	△
演習中心	△	○	◎
実習中心	△	○	◎
実技中心	△	◎	○

※授業の形式等により評価のしかたは異なる。ここでは、評価の中心となると思われるものを◎で、次に考えられるものを○、続いて△と表記している。◎は70～60% ○は30～20% △は10%を目安とする。

※実技中心の科目で作品の評価には、その製作過程における態度、提出期限等も、作品評価の中に反映されていること。また、演習や実習を中心とする科目の場合、学習態度の中に、発言の回数とか、その発言の内容、どれくらいの時間で、どれだけのレベルのものができたかなど、量や質も含まれる。

講座が中心の科目については、その知識・理解を問ううえから、原則として学科試験を行う。

ただし、各科目の特性により、優先順位も変わることがあるし、その割合は、各科目で異なる。

評価の公正さから、事前に%を決めておき、学生に事前に公開しておく。

評価者は、自分の主観に頼ることなく、できるだけ客観的な資料に基づいて評価を行う。

記録を残し、その根拠が説明できるようにしておく。

学科試験は、100点満点で行い、59点以下は追試の対象となる。

前期、後期の成績は、上記の配分での成績を出す。

＊ 追試を行わずレポート対応となった場合も追試料（1教科2,000円）は徴収する。

＊ 試験後の答案は全てやり直して提出させること。

GPA について

GPA 制度とは

GPA（Grade Point Average）制度：客観的な成績評価を行うため、授業科目ごとに0～4などのポイントを付した上で、学生ごとの成績の平均を算出すること。（文部科学省 2018 年参考資料より）

科目ごとの成績に、それぞれ定められた GP (Grade Point=係数) を与えて、1 単位当たりの平均値（Grade Point Average）を算出します。

成績評価を厳格に行い、より教育効果を高めると共に教員の指導方法改善、学生の自主性を促進することを目的としています。

GPA の計算の仕組み

成績	優	良 ^o	良	可	不可
成績点	9 0 点以上	8 9 ～ 8 0	7 9 ～ 7 0	6 9 ～ 6 0	5 9 点以下
GP (Grade Point)	4	3	2	1	0
GPA 算定対象	対象				

GPA 算出方法

成績は「優、良^o、良、可、不可」の5段階評価で「不可」は不合格。「優」から順に、4、3、2、1のグレードポイントが付与されます。修得した授業科目の単位数に、成績に応じたグレードポイントを乗じ、その合計を履修登録単位数の合計で除して算出したものが GPA となります。

GPS 値の計算式

$$\frac{(4 \times \text{優の修得単位数}) + (3 \times \text{良}^{\circ} \text{の単位数}) + (2 \times \text{良の単位数}) + (1 \times \text{可の単位数})}{\text{履修したすべての科目の単位数の合計 (優 + 良}^{\circ} + \text{良 + 可 + 不可)}}$$